

評価基準

4;適切 3;ほぼ適切 2;やや不適切 1;不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	令和5年後期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊・瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知した。 ・Webサイトにて公表。入学者には入学ガイダンスで、保護者には学生を通して周知した。 ・学生生活の手引きを在校生ならびに教職員に岩崎学園ポータルサイト(iポータル)から配信した。	・継続
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示した。 ・カリキュラムは臨床実習施設にも配布した。 ・シラバスは岩崎学園のLearning Management System(学習支援システム;以下、スタログ(LMS))で時間割と共に配信し、閲覧が可能である。 ・教育目的・目標ならびにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、HP上で公開している。	・継続 ・アセスメント・ポリシー(学習成果の評価方針)は策定途中であるが、運用できるものから実施し、修正を行っていく。

2. 学校運営

担当	評価項目	令和5年後期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊・瀬古	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4	・理事会、経営管理委員会は適宜実施されている。 ・本校では教務部会議・教務部運営会議・各学科会議・グループリーダー会議・各業務会議・卒業判定会議・進級(成績)判定会議・広報学生課会議、朝礼を開催している。 ・グループリーダー会議は各学年ごとに課題を抽出し、1回/2月の頻度で教務部運営会議に挙げ、教務部運営会議からフィードバックする方法に変更している。	・継続 ・グループリーダー会議は岩崎学園の組織改編に伴い、運営を見直す。
	・事業計画が定められているか。	4	・業務毎に1年間の業務計画を定め、実行した。	・継続
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・予算の範囲内で運営している。	・経年劣化に伴う機器の更新が多くなっている。予算の範囲内で更新をかけていく。
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。 ・ 時間休の取得が可能になり、利便性が高くなった。	・継続
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	4	・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行した。 ・3月ならびに6月の広報学生課の人事異動に伴い、教職員の事務業務が増加した。 ・岩崎学園横断プロジェクトがあり、教職員の業務量が増えている。 ・学生対応に関する担任業務が増加している。 ・COVID-19対応については2類から5類に変更になったタイミングで、学内の感染対策も緩和した。ただし、夏期の臨床実習期間については感染対策を強化した。	・3月に人事異動があり、教務事務が配置されたため、教職員の事務業務の一部を移行した。 ・岩崎学園の組織改編に伴い、学園横断プロジェクトがすべて終了した。 ・COVID-19罹患者の総務への報告が簡便化した。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・11月に目標チャレンジシートの上半期の振り返りを各自で行い、それぞれ上長との面談を行った。 ・また、12月にはキャリアプランシートを作成し、上長と面談を行い、人事考課に反映している。 ・人事考課を冬賞与時、年度末に実施し、岩崎学園に提出した。	・人事考課は夏賞与時に実施予定。
	・出退勤が適切に管理されているか。	4	・勤怠管理システム「KING OF TIME」または出勤簿を月次管理した。	・継続
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理した。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・健康診断は2023年4月3日に実施した。 ・ストレステストは12月に各自webで実施した。	・健康診断は2024年4月2日に実施した。
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・資料の配信、ミニテストなどを岩崎学園共通LMS(スタログ)で学生に展開した。 ・スタログで教員・学生共に出欠席を管理した。 ・試験結果の入力や帳票の作成、会議資料の作成をスタログで管理できるようになったため、利便性が向上した。 ・岩崎学園独自のiポータルを利用し、学園からのお知らせ・サークル活動・就職情報などを配信している。 ・学生が学校のGmailアカウントを持っているため、教職員・学生間での連絡が容易である。また、岩崎学園全体(教職員ならびに学生)でSlackを導入し、使用している。 ・DX推進委員が岩崎学園内に設置され、DX化が提案されている。	・継続 ・保護者等へのお知らせや成績発送などを郵送で行っていたが、今年度よりMyPaを導入し、資料配信とLINE通知を行う予定である。	

3. 教育活動

担当	評価項目	令和5年後期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
シラバ	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・岩崎学園共通LMS(スタログ)にて、シラバスを配信している。また、iポータルやGooglework Spaceを活用し、ホームルーム情報や総合演習のフィードバックなどを行っている。 ・配信時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。 ・シラバスは奨学金新制度に適應するよう変更し、また岩崎学園共通LMS(スタログ)での配信に合わせ、一部改良したものを導入した。	・岩崎学園共通LMS(スタログ)として、シラバス公開を継続する。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PTI37・OTI35単位(指定規則101単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年度新入生から、新指定規則に対応するカリキュラムを実施している。2024年度入学性より、PT学科で新設の科目、OT学科でカリキュラム時間・科目名の変更など部分改定の届け出を提出した。OT学科では、コロナ禍での臨床実習登録が遅延したため登録申請を行った。	・新カリキュラム5年目で、各学年のカリキュラム時間数や科目名の調整を行い、学生募集に向けた効果を確認する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、感染対策を実施しながら対面で説明を行った。 ・在校生には岩崎学園共通LMS(スタログ)で周知した。	・特になし

水島	ス・カリキュラム	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベントで実施している体験授業や高校での出前授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校2校(横浜南陵・横浜瀬谷)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・2024年度入学予定者に入学前教育プログラムを実施し、受講状況と課題提出状況を把握した。	・今年度も、従来と同様に高校生の現状を把握し、カリキュラムに反映させる。
		・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習施設と連絡を取る際に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・今年度も同様に連携していく。 ・今後Webアンケートなどを行い、結果について分析する。
		・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しが行えたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。「学生募集」の観点から、一部カリキュラムの変更・追加などを行った。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせた新しいカリキュラムの内容について検討する。
		・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・岩崎学園共通LMS(スタログ)でのシラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし
田中	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続き同様の方針で実施する。
		・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。	4	・1年目の教員が参加した「授業力診断フォローアップセミナー」は10/31に前期の振り返りが行われ、後期は新入教員の授業を先輩教員が見学しフィードバックを実施した。 ・後期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を11/13~11/24、終了後2/5~2/16に実施した。回収率は中間95.4%、終了後88.3%であった。終了後の回収率向上は、今後も課題である。集計結果は、教員がすべての教科を確認できるため、全体の傾向を把握することができる。そのうえで、中間結果を踏まえて非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。	・FDの取り組みとして学内で学科を超えた教員間の授業見学を企画・実施予定。 ・授業アンケートは、前期に中間と終了後の2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。終了後のアンケート回答率を上げるため、担任からの促しを増やす。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・後期の研修会として、進研アド担当者による「基礎力サーチ2回目の報告会」を2/26に実施した。日程調整に難航し、学期末となったことは次年度の課題である。 ・外部講習会については、対面開催を含め参加を促した。	・前期に実施する基礎力サーチ1回目の報告会は、できるだけ早期に開催し、特に1年生については、結果を十分吟味し学生指導に生かす。 ・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・クラス担任は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。 ・一部非常勤講師のオンライン授業について、教職員がサポートし、情報共有を行った。	・クラス担任は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。 ・一部、非常勤講師の実習等の授業については、教員がサポートを行う。
		・新入教職員教育を含め、スムーズな世代交代を促す教育体制を構築しているか。	4	・新入教員は学年のサポート業務を担いながら、メンター教員から指導を受けた。 ・岩崎学園の「授業力診断フォローアップセミナー」の振り返りを行った。	・1年の流れを通して全体業務と担任業務を把握できるよう、引き続き学年のサポート業務を担い、メンター教員からの指導を継続する。
森岡	臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・締め切り後、未回答の施設に対して、受け入れの確認をした。 ・追加で実習地確保を行い、必要な実習施設確保に努めた。 ・今年度の実習施設に対する申請書及び契約書の管理は滞りなく出来ていた。 ・実習費用に関して、振込作業やインボイス制度への対応など新たな業務が増え、適宜対応した。	・全施設と実習契約書を締結するため、書類の発送・管理を紙面にて行う。 ・新規施設確保を進める。 ・インボイス制度への全施設対応を行う。 ・実習地確保状況や厚労省への施設登録申請については、タイムスケジュールを確認し、進めていく。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・2024年度8月始まりの新規施設について、理学療法学科11件、作業療法学科2件の計13件を実習施設として申請書類一式を総務に提出済である。	・2025年度4・6月始まりの新規施設登録について、今後申請の準備を行っていく予定である。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・2024年度4年次臨床実習指導者会議は、2024年3月8日(金)Zoomにて滞りなく実施できた。参加率は理学療法学科73.3%(120施設中88施設出席)、作業療法学科72.6%(62施設中45施設出席)であった。	・2024年度3年次臨床実習指導者会議は、2024年6月22日(土)実施予定である。今後、会議形態の検討を含め、会議に向け準備を進める。
水島	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・受験希望者、保護者には、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開しているが、外部公開には至っていない。 ・今年度奉職者教員に対して、岩崎学園7校共通の授業力・学生指導の年間プログラムが実施された。	・継続

4. 教育成果

担当	評価項目	令和5年度後期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
田中	資格 ・学生全員にパラスポーツ指導員が認定されたか。	4	・新4年生PT学科学生のうち所定の外部実習を終了した学生については、中級パラスポーツ指導員の認定を申請した。その他のPT学科学生とOT学科学生は初級パラスポーツ指導員の認定を申請した。 ・パラスポーツ指導員(P.T学科:中級、O.T学科:初級)認定校の申請に基づきカリキュラムを進めた。 ・障がい者スポーツ大会のサポートスタッフとして3年生が参加した。 ・PT学科の一部学生は、中級申請に必要な外部実習80時間取得に向け各種ボランティアに取り組んだ。	・中級パラスポーツ指導員の資格取得(P.T学科の一部学生)に向け、地域高齢者対象の体力測定会を計画(4/27、7/6に予定)している。 ・障がい者スポーツ大会のサポートスタッフとして3年生が参加する。 ・ワールドトライアスロン横浜大会、ジャパンパラ水泳大会、エンジョイススポーツ遊びのボランティアにボランティアで参加し、PT学科学生は中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す。

	卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 両学科とも教員の指導を受け、卒業研究へ取り組みを進めた。 2023年度の卒業研究発表会を、11/10に実施した。 発表に向け、各担当教員が予演会等を実施し、準備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員指導の下、学生が卒業研究を進める。
武田	国家試験・卒業試験	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 全学生に対して個別担当による面談を実施。進捗が思わしくない学生については学科で共有し対応を検討した。 過去10年分の国家試験分析結果を反映させた補講を実施。 自宅で学習が捗らないと思われる学生について、登校できるよう工夫、支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験の傾向を分析し、ポイントを絞った補講(国試対策特別講義)を実施する。 学生の様子や実力試験結果から、タイムリーに対策の見直しを行っていく。 臨床実習空き期の学生で学力面に心配なものは強化対象として補講に参加する。
	卒業試験	<ul style="list-style-type: none"> 卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験過去問の出題頻度、難易度に合わせて、卒業試験問題作成を依頼した。 今年度の再試験については、作成規定を変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業試験と国家試験結果の関連などから、卒業試験作成既定の振り返り・見直しを行う。 卒業試験の作成時には、複数の教員が関わり問題の精査を行う。
	卒業試験・実力試験	<ul style="list-style-type: none"> 卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 年度の後半では三輪模試・歯歯模試を実力試験として実施した。 試験当日に解答・正答率を提示し、見直しを促した。 面談時に分野別正答率などから、振り返りと対策を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験の結果から補講対象者を選出する。 学生が勉強した範囲の正答率が高くなっているか確認、勉強の効果判定を行う。
中村・水島	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> 「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。 	4	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次臨床実習(1W);0項目のあった1名は追加実習により0項目がなくなった。コロナの影響と体調不良により未実施であった2名も年度末に実施し0項目なし。対象の87名全員単位修得。 2年次臨床実習(地域福祉分野2W);コロナの影響で未実施だった2名が年度末に実施し0項目なし。対象78名全員単位修得。 3年次臨床実習(4W);83名ルーブリックに0項目なく単位認定。0項目のあった1名は追加実習で0項目無く単位修得した。体調不良により継続実習の対象であったが、未実施となった1名を除く84名が単位修得。 4年次臨床実習(8週間2施設);76名ルーブリックに0項目なし。4名はポートフォリオの不備により学内での追加実習を行ったが、最終的には10月21日(土)に臨床実習後OSCEを実施し対象の76名全員単位認定。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次見学実習(1日×6分野);38名。年度末に見学実習を6領域(保育園・身体・精神・介護・就労・発達領域)実施 2年次基礎実習(介護老人保健施設2W);44名(留年1名含む)実施、D評価なし。 3年次臨床実習;臨床実習Ⅰ・Ⅱ(3週間2施設);38名実施、1名未実施あり。 4年時臨床実習;臨床実習Ⅲ・Ⅳ(8週間2施設) Ⅰ期(4/10~6/3)・実習後OSCE(6/5);15名実施/35名、全員合格。 Ⅱ期(6/12~8/5)・実習後OSCE(8/7);33名実施/35名、4名保留(1名退学予定、1名学内実習後合格、2名追加実習後合格) Ⅲ期(8/14~10/7)・実習後OSCE(10/10);21名実施1名キャンセル/35名、1名保留(1名追加実習後合格) 生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として申請した。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協会の作成した「臨床実習の手引 第6版」に準じて本校が作成した「臨床実習の手引き」を見直し令和6年度から使用する。 4年次臨床実習後単位認定の一部である臨床実習後OSCEを継続し振り返りを行う。 3、4年次臨床実習における実習指導者と実習生数について、協会推奨の1:2の導入を加速させる。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として、臨床実習におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化を行い、臨床実習の見える化、臨床実習施設との連携に取り組んでいきたい。
	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。 	4	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月21日(土) 評価者教員8名、患者様役8名外部PTで総合実習後OSCEを実施した。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> MTDLPレジュメによる症例報告・作業療法介入OSCEを各期の終了後に実施した。各回、教員及び臨床の作業療法士3名に参加してもらった。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度実施OSCE後の振り返りを基に継続し振り返りを行う。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> MTDLPレジュメによる症例報告会及びOSCE(作業療法介入の一部実施)を各期終了後、実施した。実施後の振り返りアンケート調査を学生及び外部OTに実施予定である。
	留年・退学者防止	<ul style="list-style-type: none"> 退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 退学率の低減策が教職員に共有されているか。 留年・退学結果について検証・報告を行ったか。 	3	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生(26期生)の後期再試数の平均は1.3であり、前期の0.7に対しては倍増、昨年度(25期生)の1.1とほぼ同様。 2年生(25期生)の後期再試数の平均は0.6であり、前期の0.1に比べ増加しているが昨年度(24期生)0.5とほぼ同様。 3年生(24期生)の後期再試数の平均は0.5であり、前期の0.6とほぼ同様であるが、昨年度(23期生)0.3にたいしては微増。 再試不合格者については1年生13名(昨年度3名)、2年生5名(昨年度0名)で増加、3年生は0名(昨年度3名)と減少している。1年生は特定の学生が複数落としており他の学生たちと乖離していた。2年生は再試科目数が多い学生が再試を落としていた。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期強化組は1年5名、2年6名を対象にサポートを行った。 後期の総合点による偏差値は、1年5名平均36(前期平均34)で+2、2年6名平均39(前期平均36)で+3となり、1・2年次においてプラスの効果があった。再試数は1年次で平均5.2科目、2年次で平均1.67科目であり、1年次が多かった。強化組で留年対象となったものが、1年3名、2年1名であった。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不良者、留年・退学者について要因を分析し、強化策について再検討する。 グループによる学習会の振り返りを行い、継続方法について検討する。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も強化組対策を継続する。学生間での主体的な学びを促進するため、Gems(内部特待生)やRリーグ(学生生活ポイント制度)と連携しながら継続して実施していく。
	卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HPパンフやX(旧ツイッター)、学校説明会等広報において紹介した。 卒業生参加の授業に関して、感染対策を徹底しながら行った。 現役理学・作業療法士の卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度岩崎学園主催アルムナイパーティーは、2024年5月18日(土)新江ノ島水族館にて開催予定である。 オランダでプロアスリートのパーソナルトレーナーをしている卒業生が帰国するタイミングに合わせて、学生に「海外で活動する卒業生」をテーマに講演を予定。
5. 学生支援			3	<ul style="list-style-type: none"> 留年率PT7/337 2.1%(2022年度0.3%)、OT5/160 3.1%(2022年度3.7%)、退学率はPT15/337 4.5%(2022年度1.3%)、OT3/160 1.9%(2022年度0%)と、2023年度はPT学科で目標以内に抑えることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 退学率・留年率の数値目標4%以内を継続する。

担当	評価項目	令和5年前期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
田中	社会性	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談や授業等で担任・教科担当からの指導を行った。 ・病院・地域での実習で、社会性を含めた情意面について、学生個々で明確となった課題への取り組みを担任や強化組担当教員が支援した。 ・1・2年生については、10月に実施する基礎カリサーチ内のアンケートにて、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行い、面談等の指導に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生は入学時オリエンテーションや初年次教育にて社会人・医療人としての資質の形成を支援する。 ・担任面談や授業等で担任や教科担当からの指導を行う。 ・OT学科1年生を除く学生は、夏期に病院・地域での実習を実施するため、現場での指摘事項(特に基本的態度や接遇等)を後期の指導に生かす。 ・1・2年生については、基礎カリサーチ1回目内のアンケートにて、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行う。
内山	行事	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年10月28日(土)、29日(日)に学園祭が本校及び岩崎学園各校合同で開催されCOVID-19後、初めて物販ブースが再開し来場制限も廃止となった。企画・運営も未経験の学生たちだったが試行錯誤しながら、行事担当教員のサポートを受け、活気のある横リハらしい学園祭を実施できた。参加人数については2年・3年はほぼ全員参加、1年生は各日に分けてほぼ全員参加目標である90%以上が参加した。また、高校生や卒業生、地域の方など多数の一般来校者があった。 ・本校8階講堂にて、116名の卒業生の卒業証書授与式を開催した。同日、パシフィック横浜国立大ホールにて岩崎学園全体で合同卒業式が開催され、謝恩会はロイヤルパークホテル内会場において学年全体行われた。 ・COVID-19が2類から5類に変更されたため、卒業証書授与式・合同卒業式には保護者にも臨席いただいた。 ・卒業証書授与式・合同卒業式・謝恩会も含め、良い雰囲気の中、気持ちのこもった式となった。 ・謝恩会は担当学生を中心に企画運営を行い、スムーズに進行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式は岩崎学園7校合同で開催され、リハ校は130名の入学生を迎えた。在校生代表が登壇し学校生活の楽しさなど説明、式後の会場にてクラブサークルの勧誘を行った。これからの楽しい学校生活の説明も丁寧を実施し、入学生の不安を解消することができた。 ・5月より、10月26日(土)、27日(日)に開催予定の学園祭に向け、準備を進める。学園祭委員を担う学生とコミュニケーションをとりながら、安全に学生が主体的に楽しめるよう支援していきたい。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度より、各校のサークルは学園の7校共通で参加できるよう情報提供しているため、学生が参加したいサークル活動の幅が広がり、大きなトラブルもなく進められた。 ・イベント写真については、経営管理チームと共有し、連携しながら効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに業務分担を計画的に行っている。 ・岩崎学園全体でのイベントについては、学内担当者が本部の流れや意向を把握し、学生全体が楽しめるようなイベント運営に努める。 ・各担当が業務内容を把握し、引継ぎが円滑に行えるよう随時進めていく。 ・新しいサークルの立ち上げを希望している学生に協力していきたい。
水島	個別指導	4	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回の学科会議にて早期発見・早期対応を心掛け、問題発生時には、適宜学生に関する情報交換を行った。 	・継続
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管した。オンラインでも対応可能なように、セキュリティー対策をして教員間で情報を共有した。 	・継続
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、国試担当教員が主に対応にあたった。 ・岩崎学園iポータルに就職検索や就職における履歴書添削・面接練習などのプラットフォームがあり、学生は活用した。 	・継続
瀬古	健康管理・防犯	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回実施(2023年4月3日に実施) 	・年1回実施(2024年4月2日に実施)
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生対象に薬物乱用防止教室を実施した(2023年4月13日に実施) ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起を実施した。 	・ 新入生対象に薬物乱用防止教室を実施予定(日程調整中)
瀬古	就職支援	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年内内定率(2023/12/22付) ():2022年度内定率 PT:60.2% OT:64.1% 全体:61.5%(PT:69.0% OT:68.0% 全体:69.0%) ・年度内内定率(2024/3/31付) ():2022年度内定率 PT:97.5% OT:100% 全体:98.3%(PT:98.5% OT:100% 全体:98.9%) ・一部の学生ではあるが、就職活動状況をiポータルから入力させることに難渋した。 ・求人に来校した施設の情報を教員間でSlackを利用し、共有。 ・学生の就職活動支援(履歴書・小論文添削、面接練習)を教員が行いやすいようにキャリア開発部と連携。 ・1年次からキャリア教育を進めるため、キャリア開発部によるキャリア教育講座を導入(PT5回、OT6回) ・新4年生に対しては3月に2回の就職ガイダンスを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内60%、年度内100%を目指す。 ・8月に3回目の就職ガイダンスを実施予定。 ・8月に合同就職説明会を対面で実施予定。
	災害対策	4	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市から委託されている一時避難のための災害時用食料、防寒具を更新。 ・学校保管の災害時用食料・飲料水を更新。 ・全学生を交えた避難訓練(2023/11/24)ならびに教職員の防災訓練(2024/3/25)を実施した。 ・後期に学生、教職員に災害時の安否確認フォームを展開し、練習として入力の機会を設けた。 ・通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の災害時対応マニュアルを更新し、教職員に周知した。 ・学生、教職員とも災害時の連絡手段、安否確認フォームについてはQRコードを学生生活の手引きに掲載、周知した。 ・年2回の防災訓練を実施予定。
	経済援助	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・岩崎ともみ奨学財団指定校(給付型奨学金) ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。 ・高等教育修学支援新制度(2020年～)対象機関として認定。 	・継続
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への便り(成績、出欠状況等)を後期当初に送付。 ・進級生の保護者に対し、進級の案内を3月に送付。 ・保護者向け情報公開ページをHP内に設置。 ・保護者向けメールで情報を配信した。 	・MyPaにて5月～6月にかけて成績、出欠状況等を配信予定。	

活動援助	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・2024年3月10日に対面で同窓会主催の勉強会を開催。本校を定年退職する教員を講師とし、卒業生が参加した。	・2025年3月末に同窓会主催の勉強会を開催予定。
	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チアリーディング等の活動に顧問をあて、補助金で支援している。 ・サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。 ・夏期専門学校体育大会はバスケットボールのみの開催となった。 ・男女バスケットボールチームは全国大会に出場した。 ・フットサルサークルはミニサッカー大会に出場した。	・継続

6. 教育環境

担当	評価項目	令和5年前期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
武田	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・継続
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・各ホームルーム教室があるフロアならびに6階のエレベータホールのスペースで学習がしやすいように机や椅子、パーテーション、ホワイトボードなどを整備した。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・継続
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。	・継続
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生にノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材スマコク(国家試験対策eラーニング)を使用 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を使用 ・スタログ(学習支援システム)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・継続
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。 ・Webサイトから学生が閲覧可能な状態とした。	・継続
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのパスワードは年度ごとの更新に変更した。 ・下半期は458件/月の利用件数であった。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムの検討を継続する。
	指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・継続
設備・備品	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。 ・経年劣化した心電計を更新した。 ・3次元動作解析装置を購入した。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。 ・学生が学校備品を使用するための貸出方法を変更し、簡便化した。備品がなくならないように管理していく。

7. 学生募集

担当	評価項目	令和5年前期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊・瀬古	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・2024年度生はすべての入試を終え、両学科とも定員を充足した。 ・作業療法学科が昨年に比し、早期に定員を充足する結果となった。	・2025年度生も継続して、定員確保を目指す。
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・継続
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができていないか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyocr@iwasaki.ac.jp ・希望に応じて個別相談実施。 ・オンラインによる個別相談も継続している。	・継続
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・学校説明会を開催し、学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・多くの形態のイベントが存在していたため、1日の来校により各種イベントに参加ができるよう内容を変更した。 ・受験勉強を促すよう、模擬試験や入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施した。	・現在の高校生のニーズに合わせたイベントを実施し、学生募集につなげる。
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・体験授業を定期的で開催。 ・リハビリ室見学会実施(東戸塚記念病院、牧野リハビリテーション病院、よこすか浦賀病院、湘陽かしわ台病院、座間・海老名総合病院で受入) ・1日の来校により各種イベントに参加できるように内容を変更。	・継続
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。 ・入金後の入学辞退者(2名)には返還を行った。	・継続

	・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・11月より月1回、入学予定者に対しプレップゼミを実施。 ・入学予定者に本校の授業に触れてもらうことで、内容の難しさ、学習習慣の重要性を実感してもらうとともに、同じ目標を持つ仲間と出会い、モチベーションが維持できる機会とした。	・2024/4/2~4/5にかけて入学オリエンテーションを実施した。
--	--	---	--	------------------------------------

8. 社会貢献

担当	評価項目	令和5年前期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
水島	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等開催のため、感染対策を徹底して開催。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・継続
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・安全確保と感染対策を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・臨床実習指導者講習会やその他研修会などにも貸し出している。	・継続
	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	・以下各種ボランティア等に学生が積極的に参加した。 ・つなぐカフェ;8回実施。のべ参加者126名、学生47名 ・2023ワールドトライアスロン横浜大会;のべ学生28名 ・車椅子バスケットボール体験会のボランティア;学生10名 ・YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL '23の競技サポート;学生3名 ・インクルーシブ水泳大会ボランティア;のべ学生25名 ・2023年度J-STARプロジェクト(パラリンピック競技)測定会;学生12名 ・7月、9月、10月、1月、3月の球上大岡「エンジョイスポーツあそび」;学生各1名 ・8/29「2023介護デジタルハッカソン最終発表会」で、横浜薬科大学及び岩崎学園情報校との共同参加で医療動画作成に2名。HAMATCHIに3名。NISSDISSに1名が参加し、報奨金をいただいた。 ・9/16・17・18ジャパンパラ水泳大会;のべ学生42名 ・9/24「2023横浜八景島トライアスロンフェスティバル」;学生11名参加 ・10/20「介護デジタルハッカソンin横浜」説明会 ・10/21秦野パラスポーツフェスタのボランティア;10名 ・10/26~31「燃ゆる感動かごしま大会」サポートスタッフ ・10/29「横浜マラソン2023」ボランティア;6名 ・10/29東戸塚地域ケアプラザ主催のウォークラリーイベント ・11/4『ヨコラボ 2023(YOKOHAMA Co-lab, 2023)』参加 ・10/8ラポール横浜で行われた『ラポールの日』のボランティア ・10/8トルコツアー ・6/14中華街・点心ナイト2023 ・12/3湘南国際マラソンのボランティア30名 ・12/23・24筋ジストロフィーの子供たちのお泊まり会(あめんぼ) ・2023年度 神奈川県バスケットボール協会 最優秀選手ベスト5 ・2/23神奈川県障害者スポーツ大会のボッチャのボランティア ・3/3「おだわら(R)フェス」ボランティア	・各種イベントに学生の主体性を尊重し、積極的な参加を促す。また、参加学生にはRリーグのポイント付与を行う。
	・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・地域住民対象の認知症予防を目的とした「つなぐカフェ」を5月から月1回実施。 ・地域在住高齢者を対象とした「体力測定会」を10月と2024年2月に実施。	・つなぐカフェを毎月第4土曜日に開催予定。 ・体力測定会を4月と7月に開催予定。

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	令和5年前期評価	2023(令和5年)年度後期達成状況	2024(令和6年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊・瀬古	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・臨床実習施設について変更や新規施設について県へ申請した。	・新任教員1名、新非常勤講師1名の県への登録を総務に申請済み。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。	・継続
	・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、卒業生アンケート、教職員の自己評価等)となっている。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。 ・授業アンケートをスタログ(LMS)上で実施、各授業の見直しを行っている。	・PDCAサイクルの徹底に努める。
	・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・リハビリテーション教育評価機構の認定ならびにWFOT評価については、次回受審が2026年である。	(・2025年度に受審の可否について検討し、受審のニーズが高ければ情報収集を始める。)
	・自己評価結果を公開しているか。	4	・理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正により自己点検、自己評価及びその結果をホームページで公開した。毎年更新。	・自己点検、自己評価を行い結果をホームページで公開する。(5月予定)